



## 2022年3月期第2四半期 決算説明会

2021年11月30日  
フィード・ワン株式会社  
東証1部 証券コード:2060

皆さん、こんにちは。フィード・ワン株式会社、代表取締役社長の山内孝史です。  
本日は、よろしくお願いいたします。

本来であれば決算説明会を開催し、直接ご報告・ご説明させていただくところですが、  
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年に引き続き、動画配信形式にて  
行わせていただきます。

#### 2022年3月期上半期 実績

畜産飼料の販売価格値上がりが寄与し、**大幅増益達成**

#### 2022年3月期 予想

販管費増加及び畜産飼料・水産飼料の原材料高騰懸念から減益の**期初予想は据え置き**

#### 第3次中期経営計画 Make the leap!2023

今年度より**第3次中期経営計画スタート**  
計画に基づいた施策を着々と実行。一部は前倒しに

2

まず初めに、本日のサマリーをご説明いたします。

2022年3月期上半期は、畜産飼料の販売価格値上がりが寄与し、大幅増益となりました。

2022年3月期通期は、配合飼料価格安定制度の積立金増額による販管費の増加、および畜産飼料・水産飼料における原材料費の高騰が懸念されることから、期初に公表しました減益の予想を据え置いております。

また、2022年3月期より第3次中期経営計画「Make the leap！2023」がスタートしました。上半期では、計画に基づいて施策を着々と実行しております。

まず初めに第3次中期経営計画の概要についてご説明いたします。

## 第3次中期経営計画の位置づけと基本方針

第3次中期経営計画は、第2次中計にて強化した事業基盤をフル活用した収益拡大の実現と、持続的な成長を可能にするための更なる基盤構築、と位置付けます



3

第1次中期経営計画では「統合と経営基盤の確立」を、第2次中期経営計画では「事業基盤の更なる強化」をテーマに取り組んでまいりましたが、第3次中期経営計画は、「第2次中期経営計画にて強化した事業基盤をフル活用した収益拡大の実現と、持続的な成長を可能にするための更なる基盤構築」と位置付け、基本方針としまして「経営統合の総仕上げ」を実施し、「真のリーディングカンパニー」を目指してまいります。

基本戦略として、

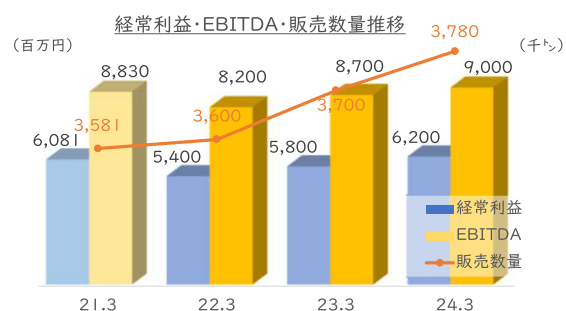
- ・コア事業である「畜産飼料」の更なる収益力強化
  - ・「水産飼料」「食品事業」「海外事業」の成長加速
  - ・ESG経営の推進と基盤強化
- の3つを掲げました。



## 第3次中期経営計画の定量計画

第3次中期経営計画は、設備投資を継続しながら、最終年度において利益の最大化と効率的な事業拡大を図る

|             | 21.3期実績   | 24.3期目標   |
|-------------|-----------|-----------|
| 飼料の<br>販売数量 | 3,581 千トン | 3,780 千トン |
| 経常利益        | 6,081 百万円 | 6,200 百万円 |
| ROE         | 11.0%     | 9.0%      |



(参考)

|        |                   |           |
|--------|-------------------|-----------|
| EBITDA | 8,830 百万円         | 9,000 百万円 |
| 設備投資   | 3次中計総額 10,500 百万円 |           |



なお、定量計画におきましては、ご覧のような目標数値を掲げております。



## 説明項目

- 2022年3月期 上半期実績
- 2022年3月期 業績予想
- 上半期の取り組み状況とトピックス

5

今回の説明項目は、まず副社長の野口より「2022年3月期 上半期実績」と「2022年3月期 業績予想」についてご説明いたします。

その後、私より「上半期の取り組み状況とトピックス」をご説明いたします。

では、野口副社長お願いします。



## 2022年3月期 上半期実績

---

6

代表取締役副社長執行役員の野口でございます。よろしくお願いいたします。

それでは「2022年3月期 上半期実績」についてご説明いたします。

## 新型コロナの影響

- 巣ごもり需要により、豚肉・鶏肉の消費は好調
- 外食産業・業務用の需要減少により、鶏卵・牛乳消費が減少

## 家畜伝染病の影響

- 鳥インフルエンザの流行により飼養羽数減少も、段階的に回復傾向
- 豚熱ワクチン接種により鎮静化、飼養頭数は回復傾向も予断許さず

## 当社への影響

- 飼料事業 配合飼料流通量は横ばいからやや増加で推移 → 影響は軽微
  - 食品事業 新型コロナ・家畜伝染病の影響で相場高騰により仕入原価増加 → 減益
- グループ全体への影響は **軽微**



まず初めに、当社業界を取り巻く、上半期の事業環境をご説明いたします。

新型コロナの影響に関しましては、巣ごもり需要により国産豚肉や鶏肉の消費量は好調に推移しております。一方で、外食産業・業務用においては、需要減少により、鶏卵や牛乳の消費量が減少しております。

家畜伝染病の影響に関しましては、去年の鳥インフルエンザが猛威を振るい、鶏の飼養羽数が減少し、飼料の供給量も減少しました。  
豚熱においては、ワクチン接種により鎮静化しておりますが、現在も限定的に発生しており、予断を許さない状況となっています。  
当社工場におきましては、継続して防疫プログラム体制を強化し、感染拡大の防止に努めてまいります。

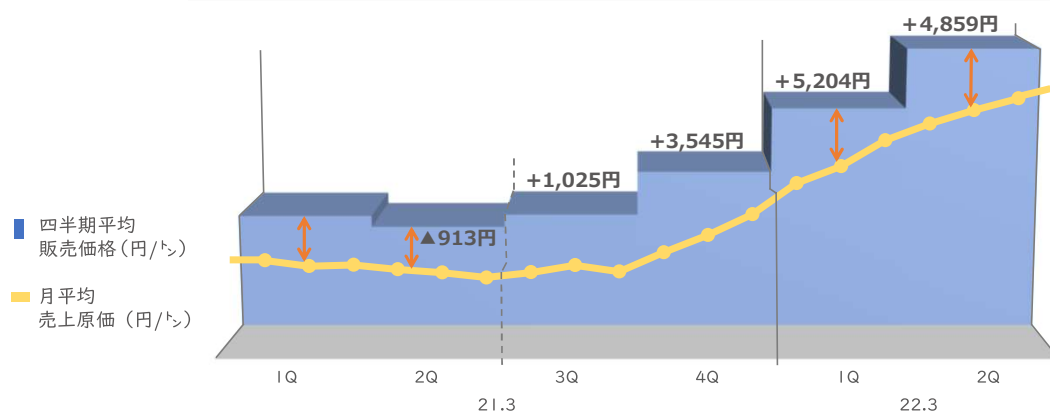
これら2点を踏まえ、当社の上半期業績への影響についてご説明いたします。

飼料事業は、配合飼料の流通量が、横ばいから微増で推移しており、影響は軽微となりました。  
食品事業は、当社取扱品目である豚肉・鶏卵の相場が高騰したことにより、減益となりました。ただ、食品事業の収益に占める割合が小さいことから、業績全体に与える影響は、軽微です。

## 畜産飼料の販売価格と売上原価推移

販売価格の上昇額が売上原価を上回り、粗利益額が増加

- ▶ 販売価格は原材料相場の変動に準じて、四半期毎に改定を行う
- ▶ 製品原価における原材料費率は8割強、原材料の5割は輸入とうもろこしが占める
- ▶ 輸入原料の価格動向に基づき、配合飼料価格安定制度による補填金の発動判定が四半期毎に行われる



8

続きまして、飼料事業の販売価格と売上原価推移について、ご説明いたします。

まず、畜産飼料は、製品原価における原材料費率は80%強であり、原材料相場の変動に伴い、四半期毎に販売価格の改定を行っております。

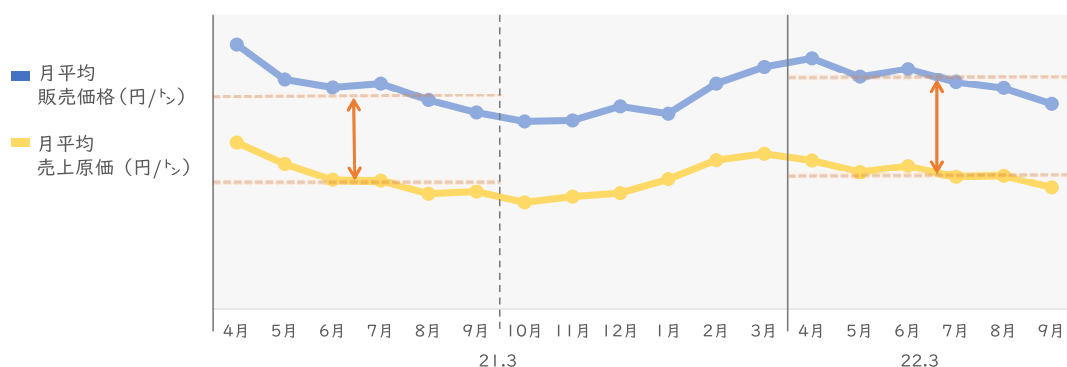
黄色のグラフが売上原価の推移であり、青が販売価格を示しております。

原料相場の急激な値上がりと実質使用ベースのタイムラグが発生していることから、上半期は、販売価格の上昇額が売上原価の上昇額を上回り、粗利益額が増加しました。

## 水産飼料の販売価格と売上原価推移

販売価格の上昇額が売上原価を上回り、粗利益額が増加

- ▶ 製品原価における原材料費率は8割強
- ▶ 原材料の4割強は魚粉が占める
- ▶ 定期的な販売価格の改定は無く、魚粉相場の大きな変動等に応じて適宜改定を行う



9

続きまして、水産飼料の販売価格と売上原価推移についてご説明いたします。

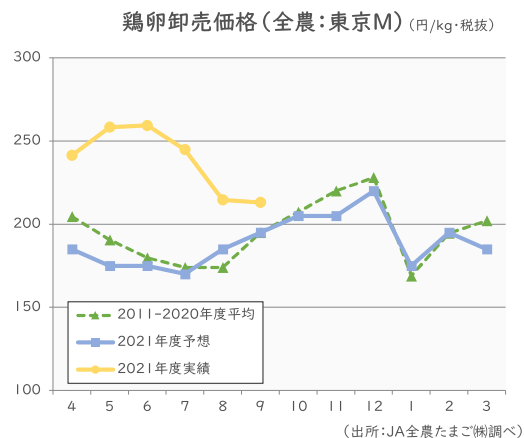
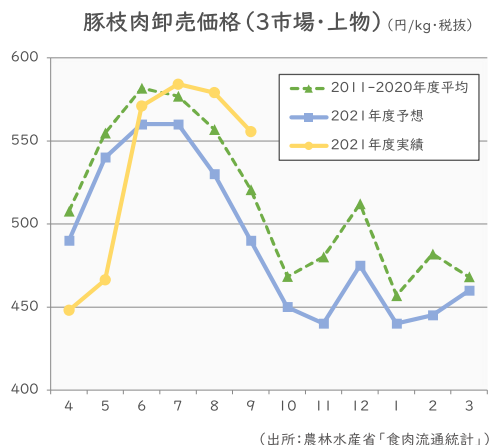
水産飼料も畜産飼料と同様に、製品原価における原材料費率は80%強であり、そのおよそ40%を魚粉が占めております。

ただし、水産飼料は畜産飼料と違い、定期的な価格改定がなく、原材料相場を勘案して適宜価格改定を行っております。

上半期は、販売価格の上昇額が売上原価の上昇額を上回ったことから、粗利益額が増加しました。

## 畜産物相場の状況

### 豚枝肉・鶏卵相場共に予想より高値で推移



10

次に、食品事業に影響を与える畜産物相場についてご説明いたします。

当社の食品事業の主な取り扱い畜産物は、豚肉と鶏卵です。  
これらの相場が上昇すると仕入れ原価も上昇し、採算が悪化する形となります。

はじめに左のグラフをご覧ください。

豚枝肉は、巣ごもり需要は続くものの、やや落ち着きを取り戻したことから、期初相場は下落しましたが、一部の地域で豚熱が発生したことにより供給量が減少し、予想値を上回りました。

次に右のグラフをご覧ください。

鶏卵相場については、昨年に鳥インフルエンザが猛威を振るい、供給面においてタイトな状況が続いたため、上半期に高値をつけるという例年のトレンドに反する異例の相場展開となっております。



## 2022年3月期上半期 決算概要

(百万円、%)

|                     | 2021.3期 上半期 |       | 2022.3期 上半期 |       | 前年同期比 |
|---------------------|-------------|-------|-------------|-------|-------|
|                     |             | 構成比   |             | 構成比   |       |
| 売上高                 | 103,013     | 100.0 | 117,858 ※   | 100.0 | +14.4 |
| 売上原価                | 92,504      | 89.8  | 105,656     | 89.6  | +14.2 |
| 販管費                 | 7,967       | 7.7   | 8,797       | 7.5   | +10.4 |
| 営業利益                | 2,541       | 2.5   | 3,404       | 2.9   | +34.0 |
| 経常利益                | 2,718       | 2.6   | 3,914       | 3.3   | +44.0 |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 1,847       | 1.8   | 2,829       | 2.4   | +53.2 |

※ 2022.3期 上半期\_収益認識に関する会計基準の適用後

### 前年同期比

- 売上高 : 収益認識に関する会計基準の適用により減少も、飼料事業で畜産飼料価格値上げにより増収
- 営業利益 : 原材料費の増加と配合飼料価格安定制度の積立金(販管費)増加も、粗利益増加により増益
- 純利益 : 営業外収益増(水産物コロナ対策補助金※ +260)、特別利益増(北九州畜産工場企業立地促進補助金+170)により増益※国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業

11

以上の状況を踏まえて、2022年3月期上半期の決算概要をご説明いたします。

2021年4月から「収益認識に関する会計基準」を適用しております。  
同基準の適用による利益への影響はありませんが、売上高の計上に影響が生じるため、  
売上高の前年同期比は参考値となります。

売上高は畜産飼料の販売価格の上昇により増収となりました。  
同様に、販管費も増加しましたが、粗利益の改善により、営業利益は前年同期比34%  
の増益となりました。  
経常利益は、水産物コロナ対策補助金収入により44%の増益、当期純利益は、  
北九州畜産工場における企業立地促進の補助金収入により53.2%の大幅増益となり  
ました。



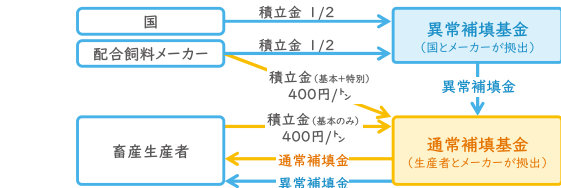
FEED ONE

## 配合飼料価格安定制度と販管費詳細

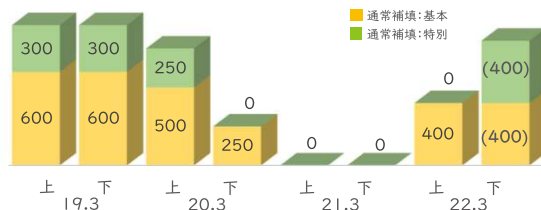
### 配合飼料価格安定制度の現状

- ▶ 飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和する目的
- ▶ 近年は基金の発動が少なかったため財源が積み上がり、積立金減額傾向が続いていたが、補填金発動により再開

制度の仕組み(例:2022年3月期上半期)

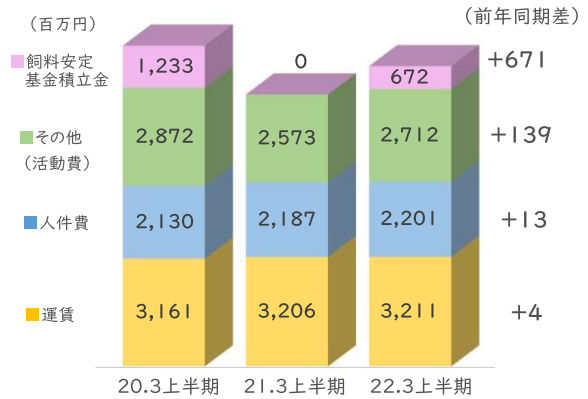


積立金推移(配合飼料メーカー)



### 販管費

- ▶ 配合飼料価格安定制度の積立金発生により増加
- ▶ その他\_研究費・次期基幹システム構築費用により増加



12

それでは、損益に大きな影響を与える「配合飼料価格安定制度の積立金」について、ご説明いたします。

配合飼料価格安定制度は、飼料価格の上昇が、畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する目的があり、この制度の財源は国・配合飼料メーカー・畜産生産者が、積立金として拠出します。

積立金は販管費となることから、積立金の動向は配合飼料メーカーの収益に大きく影響することとなります。

そこで近年の積立金の状況をまとめましたので、左下のグラフをご覧ください。

基金の発動機会が少ないことから財源が積み上がり、積立金の減額傾向が続いていましたが、先にもご説明しました通り、販売価格の上昇が続いたことから、およそ2年ぶりとなる補填金が交付されることとなりました。

補填金交付にともない、上半期で製造数量トン当たり400円、下半期では800円の積立金が確定しました。

実際の費用計上においては右のグラフをご覧ください。

前年度は積立金負担がなかったものの、上半期は6億7千2百万円の積み立てとなりました。また、その他活動費が1億3千9百万円増加していますが、これは研究開発の強化と次期基幹システムの構築費用などによるものです。

## 2022年3月期上半期 セグメントの状況

(百万円, %)

|      |         | 2021.3期上半期 | 2022.3期上半期 |                |
|------|---------|------------|------------|----------------|
|      |         |            | 増減額        | 前年同期比          |
| 飼料事業 | 売上高     | 77,315     | 97,641 ※   | +20,326 + 26.3 |
|      | セグメント利益 | 3,390      | 4,656      | +1,266 + 37.3  |
| 食品事業 | 売上高     | 24,381     | 19,005 ※   | ▲ 5,376 ▲ 22.1 |
|      | セグメント利益 | 81         | ▲ 164      | ▲ 245 赤字転落     |
| その他  | 売上高     | 1,317      | 1,212 ※    | ▲ 105 ▲ 8.0    |
|      | セグメント利益 | 161        | 138        | ▲ 23 ▲ 14.3    |

※2022.3期 上半期\_収益認識に関する会計基準の適用後

(万トン, %)

| 販売数量 | 2021.3期上半期 | 2022.3期上半期 | 前年同期比 | コメント                          |
|------|------------|------------|-------|-------------------------------|
|      |            |            |       |                               |
| 畜産飼料 | 169.8万トン   | 170.7万トン   | +0.6  | 採卵鶏用▲1%、ブロイラー用▲1%、豚用▲0%、牛用+4% |
| 水産飼料 | 4.8万トン     | 4.8万トン     | +0.7  | 海水魚用▲1%、淡水魚用+18%              |

13

次にセグメント別の状況をご説明いたします。

まず、主力の飼料事業ですが、売上高は、畜産飼料の販売価格の上昇により、増収となりました。

下の表をご覧ください。

畜産飼料の販売数量は、鶏用は家畜伝染病の影響や育種改良による飼料効率の向上により減少しましたが、牛用の拡販により数量を伸ばし、全体では前年同期比0.6%増となりました。

水産飼料の販売数量は、海水魚用において、ブリの稚魚不漁や水産物コロナ対策補助金により魚の出荷が早まりました。このことにより、養魚場にいる魚が減少し、飼料販売数量も減少しました。一方で新型コロナからの需要回復により、タイ用飼料が増加したこと、淡水魚用のウナギ・コイ用の飼料が販売強化により増加し、全体では前年同期比0.7%増となりました。  
利益においては、販管費が増加しましたが、粗利益増加により、前年同期比37.3%の増益となりました。

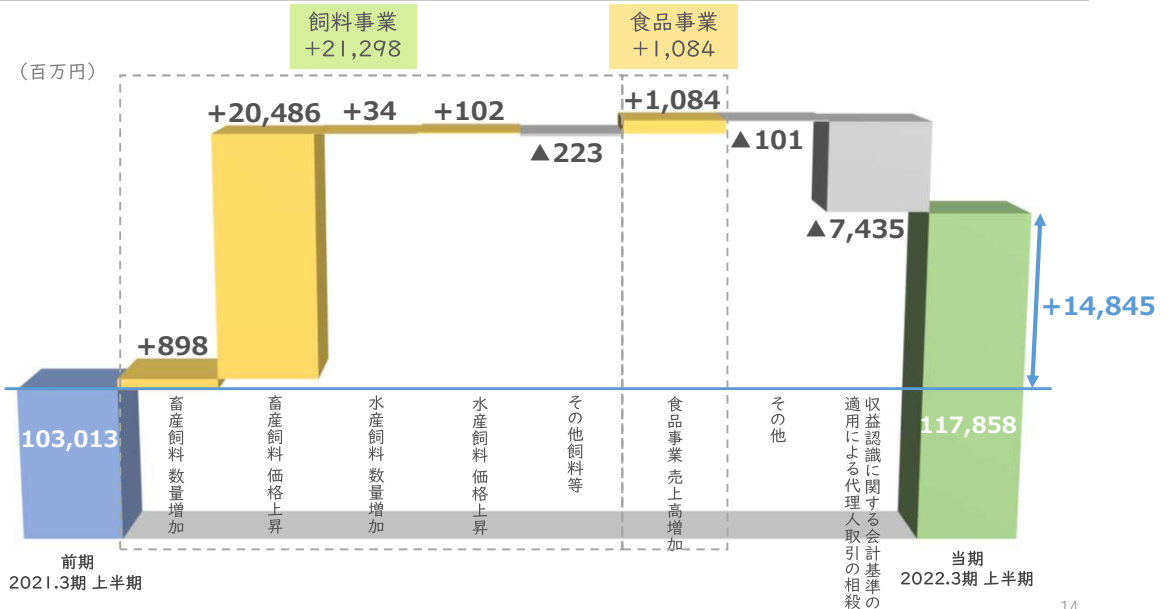
食品事業は、鳥インフルエンザの影響で鶏卵相場が高騰したため、減益となりましたが、営業外収益に計上している水産物コロナ対策補助金収入の2億6千万円を含めれば、前年並みの利益となっております。

その他セグメントは、新型コロナにより営業活動が制限され、主に水産関連資材の販売が減少し、減収減益となりました。



FEED ONE

## 売上高 増減要因



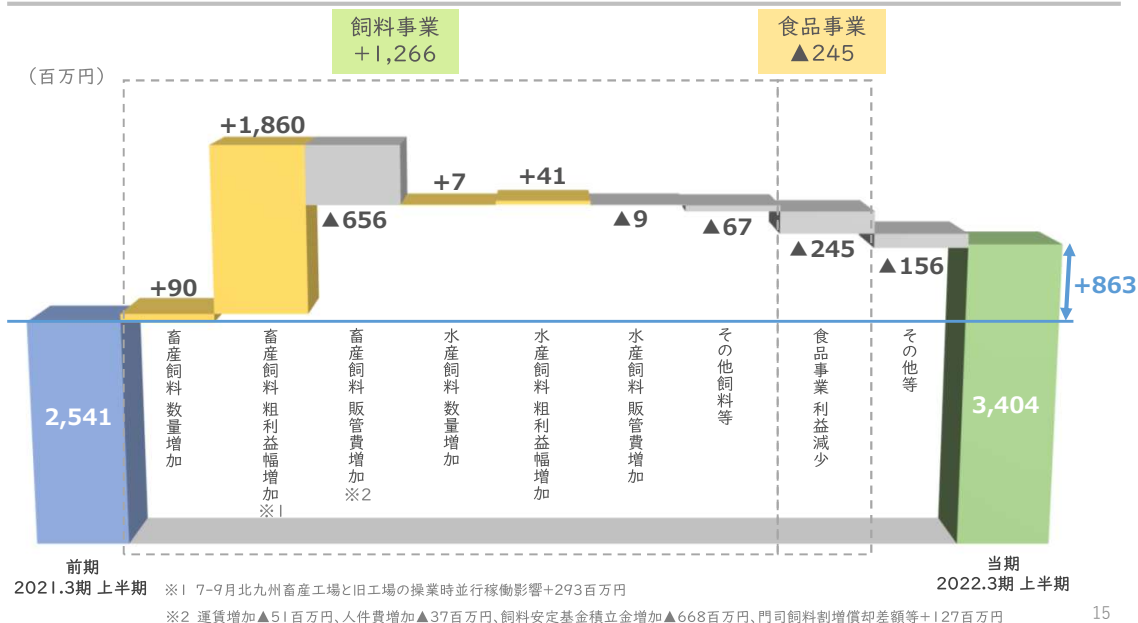
14

続きまして、売上高の増減要因です。

図の左側の青が前期、右側の緑が当期であり、前年同期差148億4千5百万円の増収となりました。

増収要因の大きなものは、「畜産飼料の販売価格の上昇」で、約205億円の増収となりました。なお、収益認識に関する会計基準の適用による減少が74億3千5百万円ございました。

## 営業利益 増減要因



続きまして、営業利益の増減要因をご説明いたします。

営業利益は前年同期差8億6千3百万円の増益となりました。  
 グラフにもありますように、増益となった最大の要因は、先程ご説明した「畜産飼料の粗利益増加」で、「畜産飼料の販管費増加」等のマイナス要因をカバーしました。

次に、畜産飼料において、前年度の旧工場閉鎖コストをカバーし、粗利益増加の一因となっております北九州畜産工場の状況についてご説明いたします。

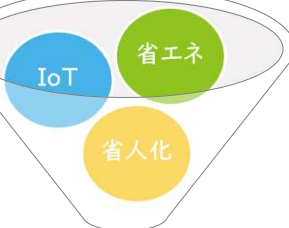


## 北九州畜産工場 稼働状況

FEED ONE

### 2020年7月出荷開始から1年経過

フィード・ワンが実現するSDGs対応  
の次世代 製造ソリューション



#### ▶ システムのフレキシビリティ

⇒ iPadで工場の制御が可能に。例えば、設備の不具合も現場で  
各機器の起動や停止が可能になり製造復旧の早期化へ

#### ▶ 最新設備とシステムを連動、工程別に電力量・蒸気量を管理

⇒ 使用するエネルギー効率の改善

#### ▶ 24時間無人自動出荷設備導入と作業エリア集約

⇒ 作業性効率UPにより人員削減

### 新工場と旧工場比較

2022.3期IQ-2021.3期IQ比較



製造数量 9%増加



エネルギー効率 17%改善

原油換算原単位



従業員数 28%効率化

協力会社従業員含む

16

老朽化した飼料製造子会社「門司飼料株式会社」に代わり、北九州畜産工場が2020年7月から出荷を開始し、1年が経過しました。

新工場はIoT・省エネ・省人化をテーマに、製造現場の効率化と生産性を最大限に高めるため 人・モノ・情報にシステムを結びつけた「製造ソリューション」を実現したSDGs対応の工場となっております。

取り組みの結果、製造数量は旧工場比で9%の増加、エネルギー効率で17%改善、従業員数は28%の効率化に繋がりました。

こちらは現段階においても、改善過程であり、今後製造数量の増加と更なる改善効果を高めて参ります。



## 2022年3月期 業績予想

---

17

続きまして、2022年3月期の業績予想をご説明いたします。



## 2022年3月期 業績予想 ～期初予想から変更なし

(百万円、%)

|                     | 2021.3期 |       | 2022.3期   |       | 前期比   |
|---------------------|---------|-------|-----------|-------|-------|
|                     |         | 構成比   |           | 構成比   |       |
| 売上高                 | 214,120 | 100.0 | 215,600 ※ | 100.0 | +0.7  |
| 売上原価                | 192,163 | 89.7  | 192,400   | 89.2  | +0.1  |
| 販管費                 | 16,284  | 7.6   | 18,200    | 8.4   | +11.8 |
| 営業利益                | 5,672   | 2.6   | 5,000     | 2.3   | ▲11.9 |
| 経常利益                | 6,081   | 2.8   | 5,400     | 2.5   | ▲11.2 |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 4,438   | 2.1   | 3,700     | 1.7   | ▲16.6 |

期初設定前提: 飼料安定基金積立金は400円/トと想定

※ 2022.3期\_収益認識に関する会計基準の適用後

(万ト、%)

| 販売数量 | 2021.3期 | 2022.3期    |                               |
|------|---------|------------|-------------------------------|
|      |         | 前年同期比      | コメント                          |
| 畜産飼料 | 349万ト   | 350万ト +0.3 | 採卵鶏用▲2%、ブロイラー用+2%、豚用+2%、牛用+1% |
| 水産飼料 | 9.6万ト   | 10万ト +4.2  | 海水魚用+8%、淡水魚用+2%               |

18

今年度通期の見通しにおきましては、原料動向や販管費の増加、新型コロナにおける先行きの不透明感から、売上・利益ともに期初予想を変更しておりません。

## 2022年3月期 セグメント別予想～期初予想から変更なし

(百万円, %)

|      |         | 2021.3期 | 2022.3期   |         |         |
|------|---------|---------|-----------|---------|---------|
|      |         |         |           | 増減額     | 前年同期比   |
| 飼料事業 | 売上高     | 162,180 | 173,100 ※ | +10,920 | + 6.7   |
|      | セグメント利益 | 7,557   | 6,500     | ▲ 1,057 | ▲ 14.0  |
| 食品事業 | 売上高     | 49,259  | 39,800 ※  | ▲ 9,459 | ▲ 19.2  |
|      | セグメント利益 | 150     | 500       | +350    | + 233.3 |
| その他  | 売上高     | 2,681   | 2,500 ※   | ▲ 181   | ▲ 6.8   |
|      | セグメント利益 | 346     | 300       | ▲ 46    | ▲ 13.3  |

※2022.3期\_収益認識に関する会計基準の適用後

### 期初予想据え置き背景

- 飼料事業 : 畜産飼料・水産飼料ともに原材料の高騰による粗利益の悪化が想定  
畜産飼料の配合飼料価格安定制度積立金増加により、期初予想より7億円ほど増加の見込み
- 食品事業 : 下半期 豚枝肉相場の低下が見込まれ、収益改善の見込み

19

セグメント別予想に関しましては同様に、期初予想からの変更はございません。

飼料事業においては、畜産飼料・水産飼料ともに原材料の高騰が想定されること、配合飼料価格安定制度の積立金が増加することを考慮して減益の予想としております。

また、食品事業においては、例年、豚枝肉相場は、上半期高く、下半期低いという季節性により、下半期の食品事業セグメント利益に大きく貢献することが、過去のトレンドとなっております。

今期も同様に下半期に大きく利益が伸びると想定しており、通期においては、公表している予想を達成するものと考えております。

私からの説明は以上となります。



## 上半期の取り組み状況とトピックス

---

20

それでは、社長の山内より「上半期の取り組み状況とトピックス」について、施策の中から大きく進捗があったものを中心にご説明いたします。

# 上半期取り組み① 畜産飼料

## 3次中計\_目標

増産体制構築と研究開発を通じて

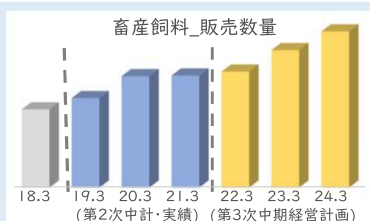
畜産業界の発展に貢献

### 数値目標

畜産飼料

販売数量

105%(21.3期比)



①牛用飼料の製造設備増設と販売数量21.3期比107%へ

■ 苫小牧飼料 フレークライン増設 145%へ 22.3期 稼働予定

■ 釧路飼料 フレークライン増設 125%へ 23.3期 稼働予定

②顧客・時代のニーズをとらえた研究開発(製品・技術)

③IoTを活用した業務プロセスの改善

## 上半期の状況

### 製造力×サービス

苫小牧飼料 フレークライン増設

製品ベースで108%増産

トータル  
コンサルティング  
サービス

牛用販売数量

前年同期比  
104%

(うち北海道地区106%)

21.3 22.3上半期



2021年8月稼働開始

高い技術力

## 今後の方針

計画) 釧路飼料 フレークライン増設 23.3期 稼働

→計画前倒し着工開始、年度内の稼働を目指す!

21

まずは畜産飼料についてご説明いたします。

畜産飼料では、「増産体制構築と研究開発を通じて畜産業界の発展に貢献すること」をテーマに3つの施策を掲げております。

本日は、1つ目の施策である牛用飼料の製造設備の増設について、ご説明いたします。

北海道の乳牛は、全国の飼養割合の60%を占め、かつ年々増頭傾向にあり、飼料の流通量の増加が見込まれることから、苫小牧飼料株式会社と釧路飼料株式会社の2拠点において、フレーク製造ラインの増設を計画しておりました。

この度、2021年8月に苫小牧飼料株式会社の増設が完了したことにより、フレーク製造能力で145%、製品ベースでは108%の増産が可能となりました。

製造能力の強化と、当社のトータルコンサルティングサービスを武器に、牛用販売数量において、北海道地区では前年同期比106%、全国においても104%と拡販を進めました。

今後の方針ですが、来期予定していた釧路飼料株式会社のフレークライン増設工事を前倒して着工し、今年度中の稼働を目指すことで、更なる増産体制を構築してまいります。



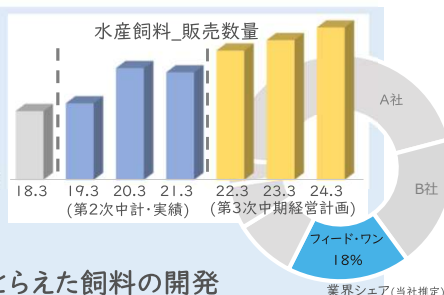
## 上半期取り組み② 水産飼料

### 3次中計\_目標

品質No.1製品とサステナブル飼料を  
武器に業界トップシェアを目指す

#### 数値目標

水産飼料  
販売数量  
115%(21.3期比)



- ①顧客ニーズをとらえた飼料の開発
- ②サステナブル飼料の開発・拡販

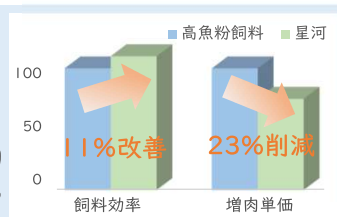
### 上半期の状況

#### 低魚粉飼料 第2弾

鱒EP 星河(せいか) 新発売  
山梨県水産技術センター 共同開発

粗脂肪含量UP  
アミノ酸バランス補正

飼料効率改善・  
増肉単価※削減により  
コストパフォーマンスに優れる  
※魚が1kg増えることに対する飼料価格比率



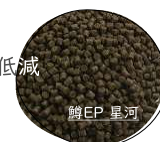
#### 環境負荷低減

糞を凝集し水質改善、糞中の窒素・リン含量低減

### 今後の方針

更なる低魚粉・無魚粉飼料の研究・開発

→環境課題に貢献するとともに、数量の拡大を図る



続きまして、水産飼料についてご説明いたします。

水産飼料は「品質No.1製品とサステナブル飼料を武器に業界シェアNo.1を目指す」ことをテーマに取り組んでおります。

世界で天然資源の枯渇問題が深刻化する中、養殖の需要は年々高まっております。更に、養殖魚の飼料の主原料は魚粉であることから、魚粉への依存が低い低魚粉飼料への取り組みが水産業界の持続的発展に寄与する重要な課題の一つとなっています。

そこで当社におきましては、今年度、低魚粉飼料第2弾として、山梨県水産技術センターとの共同開発により、鱒用飼料「星河(せいか)」の販売を開始しました。

「星河」は脂肪酸含有量を増加することや、アミノ酸バランスを補正することで、魚粉への依存度が高い高魚粉飼料と遜色ない成長速度を実現しました。糞を凝縮させる効果のある原料を添加したほか、高魚粉飼料と比較し、糞中のリンや窒素などの環境負荷物質を低減できるといったサステナブル飼料となっています。

山梨県水産技術センターからも「この飼料の普及をきっかけに、低魚粉飼料が当たり前のよう使用される時代が訪れ、養殖業者の生産コストの半分以上を占める飼料代の削減に繋がることを期待する」とコメントをいただいております。

当社の今後の方針としましては、更なる低魚粉・無魚粉飼料の研究・開発を進めるとともに、これらサステナブル飼料の普及を通じて、業界トップシェアを目指してまいります。

## 上半期取り組み③ 食品事業

### 3次中計\_目標

#### コンシューマー商品の充実と

#### 人気商品の増産体制を構築する挑戦の3年

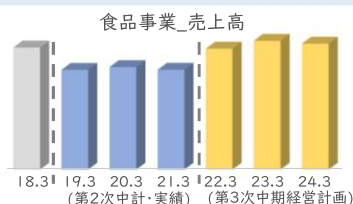
##### 数値目標

食品事業

売上高

110%(21.3期比)

※収益認識基準適用前にて算出



①人気コンシューマー商品の製造体制 再構築の検討

②コンシューマー商品開発・販売

### 商品 開発力

### 上半期の状況

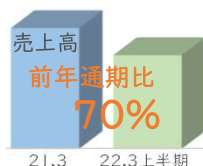
コンシューマー商品の販売状況は順調に進捗

#### フィード・ワンフーズ(株)

コロナ禍で需要が高い  
冷凍新商品を開発・販売

【粗利益に占めるコンシューマー商品比率】

21.3上半期 10% → 22.3上半期 18%



### 今後の方針

- ニーズをタイムリーにとらえ、従来商品の規格・パッケージを適宜、迅速に対応
- 冬場の鍋物需要に向け、新商品の発売

新商品をぞくぞく発売



23

続きまして、食品事業についてご説明いたします。

食品事業は、「コンシューマー商品の充実と人気商品の増産体制を構築する挑戦の3年」をテーマに取り組んでおります。

新型コロナの影響による巣ごもり需要の高まりに合わせ、コンシューマー商品の需要も高まっておりますが、2度目の緊急事態宣言以降は、食の簡便化の傾向が強まり、中食や冷凍食品の需要が高まってきております。

そこで当社は、従来のチルド商品に加え、冷凍商品の販売を開始することとしました。

その結果、売上高は上半期の半年だけで前年通期の70%となりました。また食品事業の粗利益に占めるコンシューマー商品比率は、前年同期の10%から18%に高まり、確実に食品事業における収益基盤の一つに成長しております。

今後も消費者ニーズをタイムリーに捉え、規格やパッケージ等の適宜見直しや、冬場の鍋物需要に向け新商品の発売により、コンシューマー商品の更なる売上拡大を図ってまいります。



## 上半期取り組み④ 海外事業

### 3次中計\_目標

海外事業として管理コストを含めた事業収益の黒字化へ

#### ①ベトナム: KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED

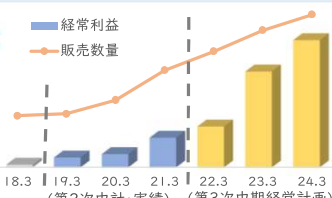
##### 数値目標

販売数量

150%(21.3期比)

経常利益

400%(21.3期比)



##### 上半期の状況

販売数量 前年同期比 **93%**

- ・新型コロナによるロックダウンの影響で、稼働確保も製造数量減少
- ・製造銘柄絞り込みを余儀なくされ、収益率の高い豚用飼料に注力

##### 今後の方針

- ・ベトナム初となるフレック設備は2022年3月稼働を目指す  
→牛用飼料(フレック飼料)による販売数量拡大

#### ②インド: NIPPAI SHALIMAR FEEDS PRIVATE LIMITED

##### 数値目標

販売数量

180%(21.3期比)

経常利益

黒字化定着・拡大



##### 上半期の状況

販売数量 前年同期比 **118%**

- ・淡水魚用は西ベンガル州・インド北東部での拡販が奏功し好調
- ・エビ用はサイクロン影響も、新型コロナから回復あり前年同期比増

##### 今後の方針

- ・2021年10月より日本人スタッフ現地再派遣  
→品質維持・向上、淡水魚用飼料の更なる販売数量拡大

次に海外事業です。

海外事業においては、管理コストを含めた事業収益の黒字化に取り組んでおります。

まずベトナムでは、新型コロナの感染爆発によるロックダウンの影響で製造要員が不足し、販売数量は前年同期比93%と減少しました。

その様な厳しい状況下、収益性の高い豚用飼料に注力し、年間利益達成に向けて取り組んでおります。

幸いなことに、直近では新型コロナの感染者数は減少傾向にあり、ロックダウンは解除され、通常稼働に戻りつつあります。今後は新型コロナの状況次第となりますが、ベトナム初となるフレック設備を年度内に導入し、飼養技術の普及とともに牛用飼料の拡販を行います。

インドでは、淡水魚用飼料において、西ベンガル州・インド北東部での拡販が好調であり、エビ用飼料においても新型コロナから回復し、全体では前年同期比118%と順調なスタートとなりました。

今後は新型コロナの影響で一時的に帰国していた日本人スタッフを現地に再派遣し、品質の維持・向上を図り、販売数量拡大につなげるとともに、製造面においては生産性向上による製造原価の低減に取り組んでまいります。



FEED ONE

## 上半期取り組み⑤ ESG経営の推進と基盤強化

### 3次中計\_目標



- ①働き方改革の推進
- ②DX・新事業への取り組み
- ③ガバナンス強化
- ④ESG/SDGs体制の構築

### 取り組み状況

#### ●気候変動リスクへの対応

TCFD提言に則った開示を実施予定

2050年カーボンニュートラルへ積極取り組み開始

- 省エネ設備の導入・設備更新
- 食品ロス等サステナブル原料を活用した資源循環型社会の実現
- 環境負荷物質を低減するサステナブル飼料の研究・開発

三井物産\_サービスプラットフォーム「e-dash」への参画

- 拠点別にGHG排出量を可視化管理、削減サポートパートナー

#### ●スタートアップ企業とのイノベーション取り組み

横浜銀行アクセラレータープログラムへの参加  
31件の応募から2件取り組みに向けた実証実験開始



- バングラデシュのマイクロファイナンス機関ネットワークを通じた水産用飼料市場開拓に向けた調査
- 水産飼料の製造計画におけるAI需要予測

#### ●次期基幹システム構築始動

拡張性と柔軟性とタイムリーな情報提供力で  
事業運営を支える経営管理システムを実現



- 高精度の速報性高いデータを活用し、迅速な経営意思決定をサポート
- 標準化・効率化により高度な業務推進を図る

飼料業界初

#### ●統合報告書 11月発行

当社だからこそ実現可能な価値創造を可視化



- 社会から信頼され続ける企業であるために、IR・ガバナンスの強化を図る

25

基本戦略の3つ目は「ESG経営の推進と基盤強化」となります。

テーマとして、「働き方改革の推進」「DX・新事業への取り組み」「ガバナンス強化」「ESG/SDGs体制の構築」の4つを掲げ、取り組んでおります。

特に、世界的に課題となっている気候変動リスクへの対応ですが、スピード感を持って積極的に取り組むことは、中長期的にビジネス機会の獲得に繋がると確信しています。まず、TCFD提言に則った「気候変動に伴う事業リスクと機会等」の開示を予定しております。また、具体的な対応として、自社工場・グループ会社工場において省エネ設備の導入や設備更新を積極的に進めます。サプライチェーンにおいては、食品ロスなどを有効利用したサステナブル原料の活用、環境負荷を低減するサステナブル飼料の研究・開発に取り組むことで、カーボンニュートラルの実現を目指します。

また、三井物産による環境サービスプラットフォーム「e-dash」事業に参画し、温室効果ガスの排出量を可視化、同社の専門的な知見により、エネルギー課題の解決に向け取り組んでまいります。

その他、横浜銀行アクセラレータープログラムへ参加し、スタートアップ企業と技術革新への取り組みを開始したことや、拡張性と柔軟性とタイムリーな情報提供力で事業運営を支える経営管理システムを実現するために、プロジェクトチームを結成し、2023年の稼働に向け取り組みを開始しました。

11月には飼料業界初となる統合報告書を発行しました。当社だからこそ実現可能な価値創造を可視化し、社会から信頼され続ける企業であるために、IR・ガバナンスの強化に取り組んでおります。



## トピックス ESG/SDGsの取り組み

FEED ONE

### 企業価値向上のため、社内外において積極的に活動

#### ●日本財団「海と日本PROJECT」主催 横浜の街のごみ拾いイベント参加

6月19日(土)  
本社および  
関係会社から  
40名参加



#### ●月刊誌「日経ESG」8月号 未来戦略インタビュー記事掲載

ESG/SDGs  
の取り組みや  
経営戦略  
について  
インタビュー  
記事掲載



<https://project.nikkeibp.co.jp/ESG/atcl/column/00006/071500062/>

#### ●農林水産省との連携

農林水産省「SDGs×食品産業」に  
当社のSDGsの取り組みインタビュー  
が掲載

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/>

農林水産省「FCP子どもページ」にて  
当社HP「食育・工場見学サイト」が紹介

[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/fcp/kodomo\\_page.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/fcp/kodomo_page.html)



#### ●社内取り組み

##### 「私のSDGs宣言」プロジェクト開始

全従業員が個人ごとにSDGsを  
意識した行動を宣言！  
実行することでSDGsを自分事  
として捉え、意識改革を図る



26

次にトピックスとして、ESG/SDGsの取り組みについて、ご説明いたします。

当社グループは組織的に取り組むため、2021年2月にESG委員会を発足いたしました。SDGsに特化した全社グループ目標の取り組みを推進するほか、様々な活動に取り組んでおります。今回はその一部をご紹介します。

環境保全および地域貢献活動の一環として、日本財団主催の「横浜の街のごみ拾いイベント」に参加しました。地域の美化に努め、世代を超えた交流により、地域の活性化に繋がる取り組みとなりました。

また、農林水産省による食と農林水産業のサステナビリティを考えるプロジェクトへ参画するなど、SDGsの取り組みを通じ、同省との連携を深めております。

当社の取り組みが同省のホームページに紹介される等、我々業界を広く周知するとともに、当社の認知度を高め企業価値の向上に繋がりたいと考えております。

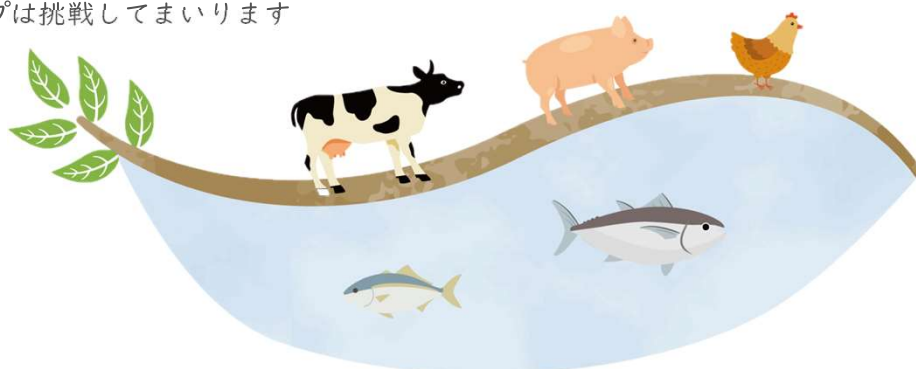
社内においては、SDGsを自分事として捉えることを目的に「私のSDGs宣言」プロジェクトを開始しました。全従業員が個人ごとにSDGsに沿った行動を宣言し、取り組んでおります。個人の小さな積み重ねがSDGsの課題達成に繋がることを実感し、活動を通じた気づきが、当社グループの取り組みに繋がるきっかけとなることを期待しています。

今後も社内・社外において、様々な活動を積極的に実施することで、企業価値の向上に努めてまいります。



## さいごに

すべてのステークホルダーのために、  
フィード・ワングループが飛躍し続けるために、  
業界と社会そして地球の未来の持続的な発展のために、  
フィード・ワングループは挑戦してまいります



27

最後に、今回ご説明の通り、第3次中期経営計画は、好スタートを切ることができました。しかし一方で、社会では新型コロナや気候変動リスク、業界においては家畜伝染病や飼料原料の高騰など先行きの見通しは困難な状況にあります。

そうした中で当社は、ひとつひとつの課題を解決するために、「現場主義・顧客目線」の行動指針の下、研究・製造・販売が一体となって、製品やサービスの向上を目指し、皆さまに提供することで、自らも成長していく会社でありたいと考えております。また、そうした持続的成長を実現し、業界の発展に貢献することが当社グループの使命であると認識しています。

すべてのステークホルダーの皆さまにとって魅力的な会社となること、業界と社会、地球の未来の持続的な発展に貢献するリーディングカンパニーを目指して挑戦してまいりますので、今後とも皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。



本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、  
その情報の正確性を保証するものではありません。  
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛  
([ir@feed-one.co.jp](mailto:ir@feed-one.co.jp))にご連絡ください。

28

以上をもちまして、2022年3月期 第2四半期 決算説明会を終了いたします。

ご視聴、誠にありがとうございました。